

英語コーパス学会 2018 年度春季研究会

日時：2018 年 4 月 21 日（土） 14:00～16:50

場所：東京外国語大学（東京都府中市朝日町 3-11-1）

参加費：会員無料、非会員 1,000 円

研究会終了後には、下記の通り懇親会を開催いたしますので、こちらもご参加ください。

参加ご希望の方は、《4 月 16 日(月)までに》[Web フォーム](#)よりお申し込みください。

日時：4 月 21 日（土） 17:30～19:30

場所：[ろかーる](#)（武蔵境駅徒歩 3 分）

会費：4,000 円（飲み放題付きコース料理）

申し込み期限：4 月 16 日（月）

【お知らせ】

当日は機関誌『英語コーパス研究』の第 14 号と第 15 号の無償配布を行います。（第 1 号から第 15 号は入会時等にお渡ししている CD-ROM に収録されています。）

また、第 22～24 号の販売もいたしますので、ご希望の方は当日受付でお申し付けください。

（ただし、いずれも数に限りがございますので予めご了承ください。）

プログラム

14:00～14:30：全体会（115 教室）

14:40～15:40：ESP 研究会（107 教室）・ツールと統計手法研究会（108 教室）・DDL 研究会（113 教室）（3 室同時並行）

15:50～16:50：コーパスと CEFR 研究会（107 教室）・語彙研究会（108 教室）（2 室同時並行）

内容

ESP 研究会シンポジウム 14:40～15:40 (1)：107 教室

セッション・テーマ：「ESP 研究におけるコーパス利用」

司会：石川有香（名古屋工業大学）

1. 「ESP 研究とコーパスの接点」野口ジュディー（神戸学院大学）
2. 「医療系 ESP 教育におけるコーパス利用」藤枝美穂（大阪医科大学）
3. 「工学系 ESP 研究におけるコーパス利用」川口恵子（芝浦工業大学）
4. 「工学系 ESP 語彙教育におけるコーパス利用」石川有香（名古屋工業大学）
5. オープン・ディスカッション

ツールと統計手法研究会シンポジウム 14:40~15:40 (2) : 108 教室

セッション・テーマ：「価値あるコーパスツールと統計手法とは何か」

司会：アントニ ローレンス（早稲田大学）

1. 「SIG 設立の趣旨と方針」（10 分）
2. 「価値あるコーパスツールとは何か」（15 分）
3. 「価値ある統計手法とは何か」（15 分）
4. 「オープン・ディスカッション」（20 分）

DDL 研究会シンポジウム 14:40~15:40 (3) : 113 教室

SIG メンバーによる以下の多様な DDL 実践を紹介します。

司会：中條清美（日本大学）

- (1) 「The concepts of Contemporary DDL and Classic DDL」 Gregory Hadley（新潟大学）
- (2) 「2つの開発 - SCoRE と小中学生向け DDL 英語学習支援サイト -」 赤瀬川史朗（Lago 言語研究所）
- (3) 「教育用例文コーパスの公開と DDL 実践」 中條清美（日本大学）・濱田彰（日本大学）
- (4) 「SCoRE を利用したハンドアウトの作成とそれを利用した DDL 実践」 若松弘子（筑波大学）
- (5) 「DDL で育む小・中学生の英語力」 西垣知佳子（千葉大学）・石井雄隆（早稲田大学）
- (6) 「英作文のエラー・コレクションに対するコーパス使用の効果」 佐竹由帆（駿河台大学）

コーパスと CEFR 研究会シンポジウム内容 15:50~16:50 (1) : 107 教室

セッション・テーマ：「CEFR とコーパス分析の接点」

司会：宇佐美裕子（東海大学）

1. 「SIG 設立の趣旨と CEFR とコーパス分析の最新動向」 投野由紀夫（東京外国語大学） 20 分
2. 「CEFR(-J)準拠コーパス構築と CEFR-J Grammar Profile における文法項目使用例抽出手法」 石井康毅（成城大学） 20 分
3. オープン・ディスカッション 20 分

語彙研究会シンポジウム 15:50~16:50 (2) : 108 教室

司会：杉森直樹（立命館大）

<第1部：コーパスと語彙>

内田諭（九州大）「英単語の CEFR レベルとコーパス頻度」

本発表では英単語の CEFR レベル（A1~C2）とコーパスにおける頻度を検証する。CEFR-J Wordlist および COCA の頻度情報を用い、難易度と頻度のギャップを探る。

阿部真理子（中央大）「縦断的コーパスを用いて英語スピーキング力の発達を探る：語彙の観点から」

縦断的コーパスを構築することで、高校生の英語スピーキング力の発達を調査している。研究プロジェクトの概要と一年間の語彙の発達について報告する。

<第2部：コーパスと連語>

石川慎一郎（神戸大）「TIO (Target-Input-Output) 連動分析で見る L2 英語 n-gram」

母語話者コーパス、教材コーパス、学習者コーパスを連動解析し、教材や学習者 L2 運用における n-gram 使用の問題点を計量的に明らかにする。

長谷部陽一郎（同志社大）「語の意味的粒度とコロケーションに関する試論」

認知言語学におけるスキーマ・ネットワーク（および基本レベルカテゴリー）の概念がコロケーションとどう関わっているかを計量的に明らかにするための方法について試論を示す。